



「地球最後の日」まで2分、過去最短に

【ワシントン共同】米誌「ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト」は25日、地球最後の日までの残り時間を概念的に示す「終末時計」の時刻を去年から30秒進め、残り「2分」と発表した。米ソ冷戦中で水爆開発が過熱していた1953年と並び、過去最短となった。同誌は、北朝鮮の核開発に加え、金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長とトランプ米大統領の間で挑発



「地球最後の日」まで残り2分と表示された「終末時計」=25日、米ワシントン(ロイター=共同)

的な発言が続くなどして偶発的な核戦争の危険性が高まったことなどを理由に挙げた。

核戦争の脅威が間近に感じられた53年と同じ残り時間になったことについては、核を保有する国が増えたほか、地球温暖化への対応のまずさや、インターネットやゲノム編集などの最先端技術が悪用される懸念が高まっていることが複合的に影響したと説明。同誌のメンバーは「多国間で解決しなければならない多くの問題が生じている」と指摘した。

時刻は過去1年の出来事を踏まえ、進めたり戻したりし、毎年この時期に発表している。

(佐賀新聞 2018.1.27 付)

◎記事から読み取ろう

○「終末時計」とはどんな時計ですか。

○「終末時計」が残り「2分」とされたのは、どのような状況からですか。主に3点あげられています。

◎自分の考えをまとめよう *友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○多くの問題を多国間で解決していくためには、どうすればいいと思いますか。

最初の考え
() の意見
まとめ

